

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースの為のNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

（研究分担者 渡邊聡明 東京大学医学部腫瘍外科・血管外科 教授）

研究要旨

大腸癌研究会では、40年以上にわたり全国大腸癌登録事業を行っている。近年では年間約7000例の登録があり、累計約160000例の登録数を有する。一方、大腸癌罹患数が増加している反面、大腸癌全国登録への登録数は増えていない。悉皆性を高めるためには、NCDとの連携が解決策の一つと考えられるが、そのために解決すべき課題も明らかとなった。

A. 研究目的

現在行っている臓器がん登録（大腸がん登録）について、以下の点について検討する。

- ①臓器がん登録システムの現状と課題
- ②臓器がん登録を用いた臨床研究の現状
- ③NCD登録との連携に向けて
- ④NCD以外の第三者機関との連携の可能性
- ⑤全国がん登録との関わり

B. 研究方法

臓器がん登録の現状を整理し、その現状および他臓器がん登録の試みも踏まえ、上記①～⑤について検討する。（倫理面への配慮）現行の大腸癌登録データは連結不可能匿名化情報である。

C. 研究結果

①大腸がん登録システムの現状と課題

運営母体：大腸癌研究会
事務局：大腸癌全国登録委員会
目的：大腸癌に関する統計、資料の収集および提供
登録開始：1974年
累積登録数：約16万例
現在の年間登録数：約7000例
登録形式：ファイルメーカー
Retrospective

②大腸がん登録を用いた臨床研究の現状

データは毎年Multi-Institutional Registry of Large Bowel Cancer in Japanとして発刊され、公表されていた。また、2005年より2016年までに16の臨床研究が英文誌に発表されていた。

③NCD登録との連携に向けて

NCDとの連携に向けて、大腸癌全国登録委員会を中心に検討中である。これまでの大腸癌全国登録項目165のうち、NCD実装予定の66項目の選定が

終了している。また、NCD実装に当たって解決すべき問題として、資金、悉皆性の担保、情報粒度などが挙げられた。

- ④NCD以外の第三者機関との連携の可能性
想定していない
- ⑤全国がん登録との関わり

想定していない。現状では予後情報が取得できない可能性がある。また、可能な場合でも匿名化連結の実現性に問題があると考えられる。

D. 考察

これまで大腸癌研究会を中心に行ってきた大腸癌全国登録は、情報粒度が担保され、これまで大腸癌取扱い規約、大腸癌診療ガイドラインの発刊・改訂にも大きな役割を果たしてきた。ただし、大腸癌手術例全体における症例カバー率は6-7%で推移しており、悉皆性に問題がある。NCDと連携することで、悉皆性を高められる可能性があるが、以下の問題点につき解決する必要がある。

資金：データベースの構築・維持には多額の資金が必要であり、その確保が求められる。

悉皆性：現行の大腸癌登録は任意で行われており、NCDと連携しても登録率が上がるとは必ずしも言えない。登録率を上げるための方策が必要と考える。他学会の専門医制度との連携等も模索する必要がある。

情報粒度：多くの施設にデータ入力をしてもらうためには、入力項目をかなり少なくする必要がある。NCDとの連携においては、実装項目を更に少なくする必要性も含め、見直しを要する。

<p>E. 結論 大腸がん登録システムとNCDとの連携により、悉皆性を高めることができれば、大腸癌治療における実際のトレンドをこれまで以上により正確に把握することができると思う。一方、その連携を実現・運用していくために解決すべき問題点も明らかとなった。</p> <p>F. 健康危険情報 該当なし</p> <p>G. 研究発表 1. 論文発表 ● Ishihara S, Otani K, Watanabe T, et.al. Prognostic impact of lymph node dissection is different for male and female colon cancer patients: a propensity score analysis in a multicenter retrospective study. Int J Colorectal Dis. 2016 Jun;31(6):1149-55 ● Abe S, Kawai K, Watanabe T, et.al. Prognostic Value of Pre- and Postoperative Anti-p53 Antibody Levels in Colorectal Cancer Patients: A Retrospective Study. Oncology. 2016 Oct 29. [Epub ahead of print] ● Kawai K, Ishihara S, Watanabe T, et.al. Survival Impact of Extra colorectal Malignancies in Colorectal Cancer Patients. Digestion . 2016;94(2):92-99 ● Nozawa H, Ishihara S, Watanabe T, et.al. Paradoxical Reductions in Serum Anti-p53 Autoantibody Levels by Chemotherapy in Unresectable Colorectal Cancer: An Observational Study. Oncology. 2016;91(3):127-34 ● Ishihara S, Kanemitsu Y, Watanabe T, et. al. Oncological benefit of lateral pelvic lymph node dissection for rectal cancer treated without preoperative chemoradiotherapy: a multicenter retrospective study using propensity score analysis. Int J Colorectal Dis. 2016 Jul;31(7):1315-215</p>	<p>2. 学会発表 ● 渡邊聡明：「ガイドラインと外科下部消化管 大腸癌治療のガイドライン」日本外科学会雑誌 (0301-4894)117巻5号 Page2 ● 渡邊聡明：「癌合併炎症性腸疾患に対する外科治療 下部消化管 潰瘍性大腸炎合併大腸癌サーベイランスの有用性」日本外科学会定期学術集会抄録集 115回 Page PD-12-2 ● 川合一茂：「局所進行直腸癌に対する集学的治療戦略 下部消化管 局所進行直腸癌に対する術前放射線療法と化学放射線療法の比較」日本外科学会定期学術集会抄録集 115回 Page SY-22-7</p> <p>H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。) 1. 特許取得 なし 2. 実用新案登録 なし 3. その他 なし</p>
---	--